

10. 地域医療連携・患者支援センター部

当院の地域医療連携・患者支援センター部は、①入退院支援センター、②医療相談室、③地域医療連携室、④がん相談支援センターの4部門が置かれ、医師、看護師、MSW、事務職員によって構成されている。4部門には、それぞれ室長が置かれ（いずれも併任）、協力して業務の運営にあたっている。4部門の業務はそれぞれ、①入退院を通じて多職種連携による「患者様のフロー（流れ）」の調整、②各種医療相談、③診療・検査予約、転院窓口、地域連携医療情報システム、病院広報誌の発行やホームページの運用管理、公開講座の開催支援を行っているが、それぞれの部門の仕事が相互に重なっており、一体となって上記業務を行っている。

入退院支援センターは、2025年3月末で現在21診療科（整形外科・外科・心臓血管外科、脳神経外科、泌尿器科、乳腺外科、産婦人科、眼科、循環器科、歯科口腔外科、耳鼻咽喉科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、皮膚科、膠原病内科）の入退院支援を行っている。

なお、当院は「地域医療支援病院」、「がん診療連携拠点病院」としての機能を付与されており、この機能を継続していくためには、一定以上の紹介率・逆紹介率の確保、医療機器の共同利用、共同診療病床の確保、相談窓口の設置、がん情報の提供、がん相談、病病連携・病診連携の構築など達成しなければならない条件がいくつか存在するが、その多くは、現在担っている業務に属している。その意味で、地域医療連携・患者支援センター部は当院の営業を支えている部門と言える。

また、地域医療連携システムの金鯨メディネットは、インターネット上で連携施設のパソコンから当院のカルテや画像などが閲覧できるシステムであり、その利用施設数は2025年3月末で119施設（診療所73、病院19、訪問看護3、薬局19、臨床5）となっている。

以下に、地域医療連携・患者支援センター部における2024年度の実績を記述する。また、院内外で実施されている研究会・研修会の一覧もここに付記する。

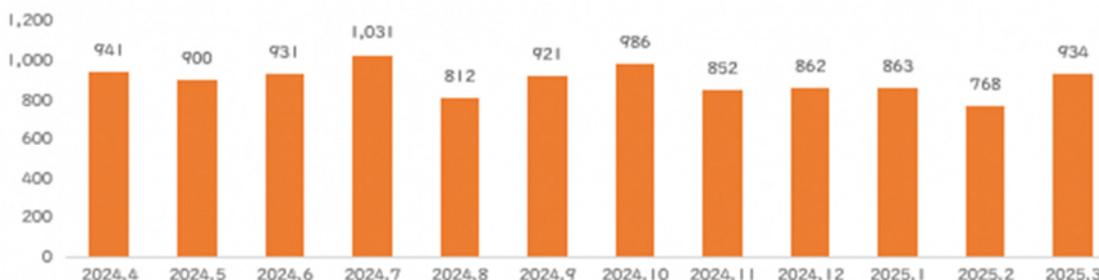
昨年度に引き続き2024年度も市民公開講座をはじめ、様々な研修会・研究会について感染対策を行った上で開催した。

地域医療連携室

1. 医療連携実績

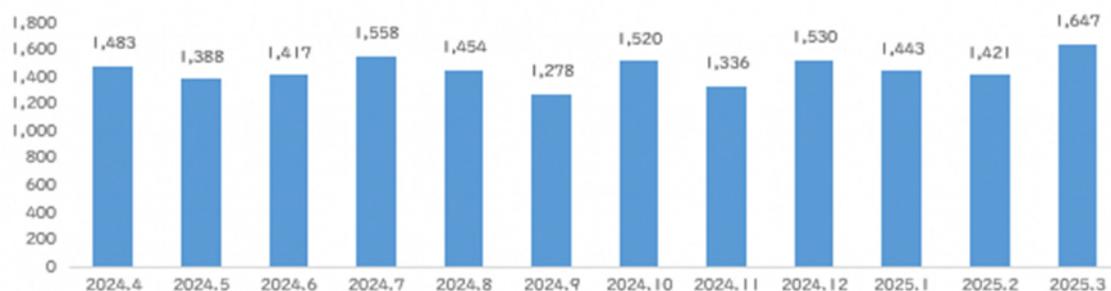
1) 2024年度の紹介患者数の推移を示す

紹介率 92.9%

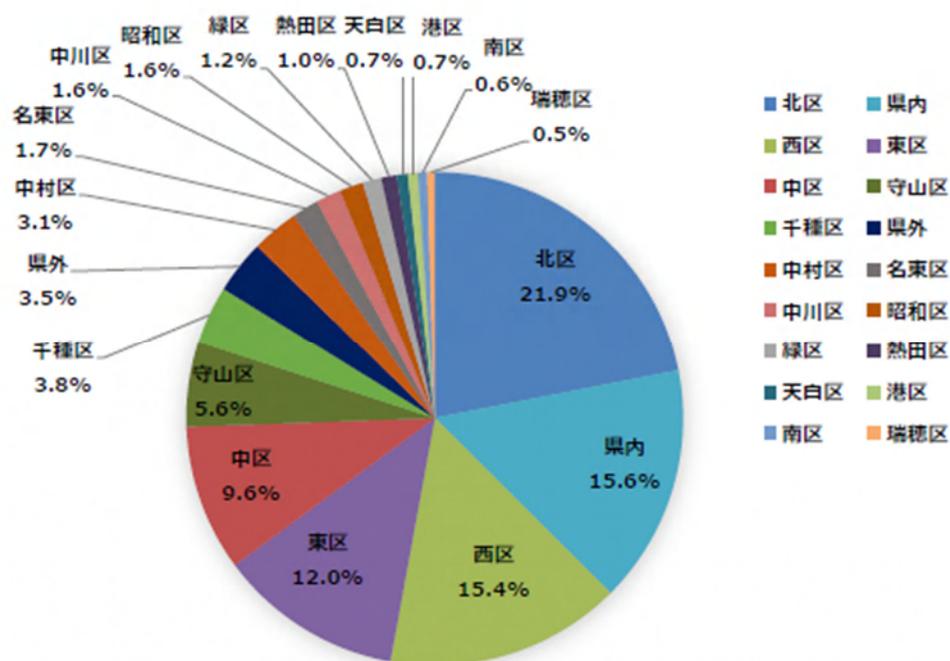


2) 2024年度の逆紹介患者数の推移を示す

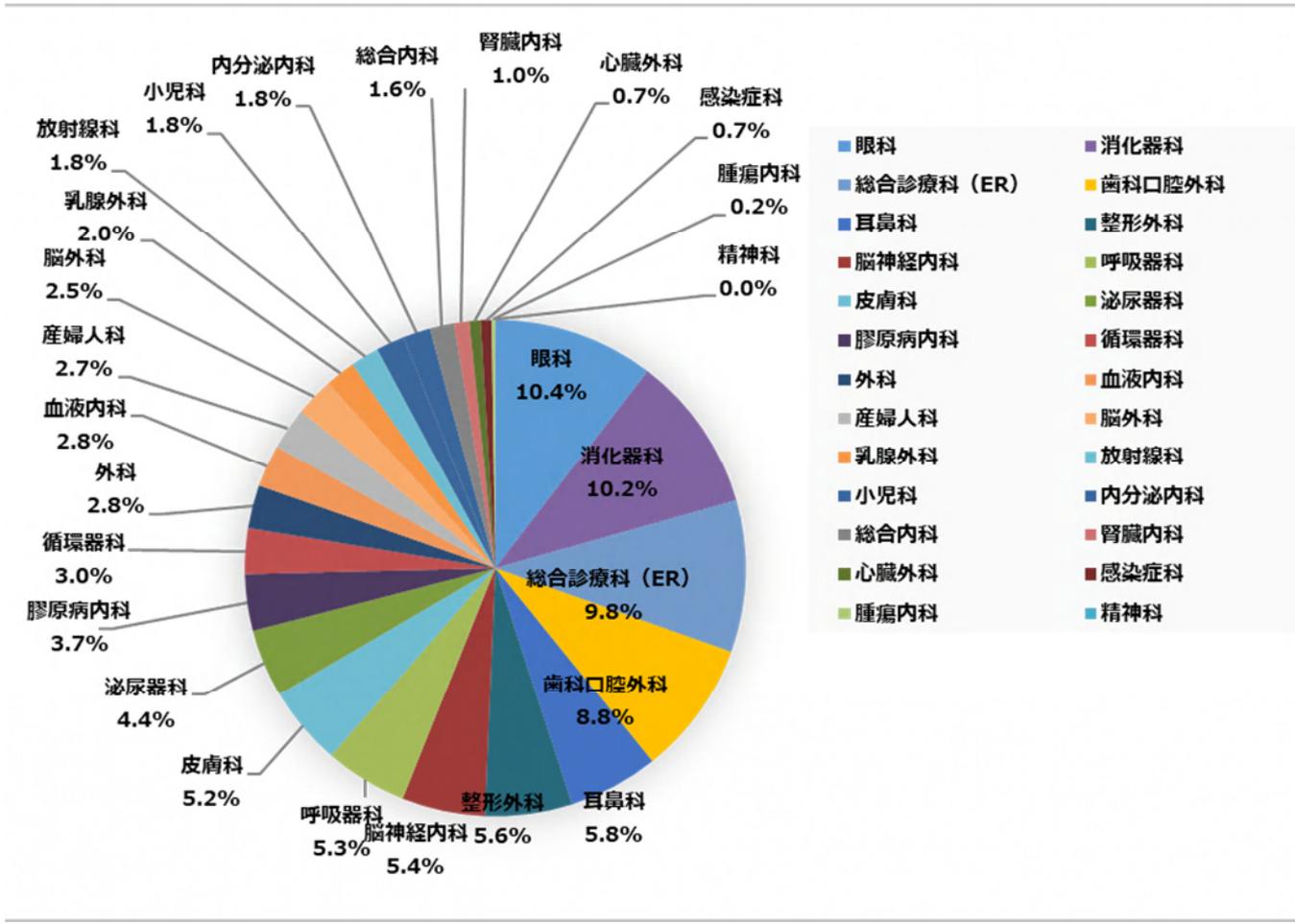
逆紹介率 150.9%



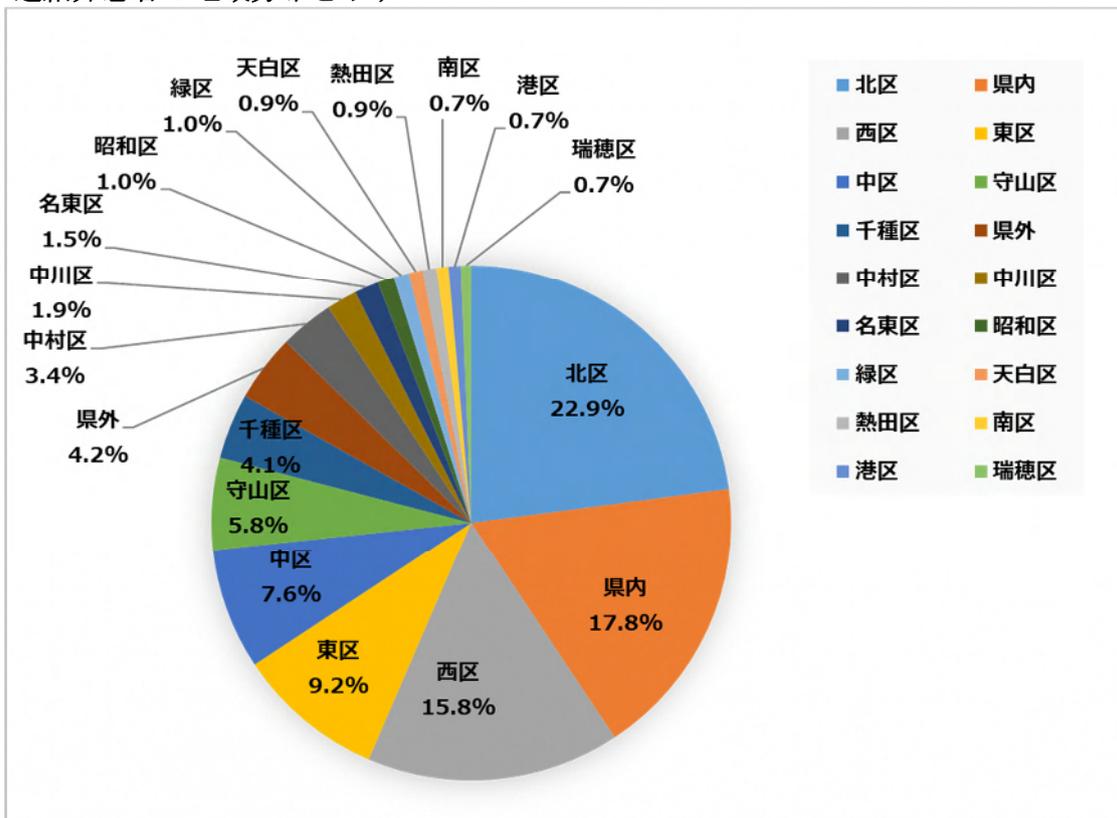
3) 紹介患者の地域分布を示す



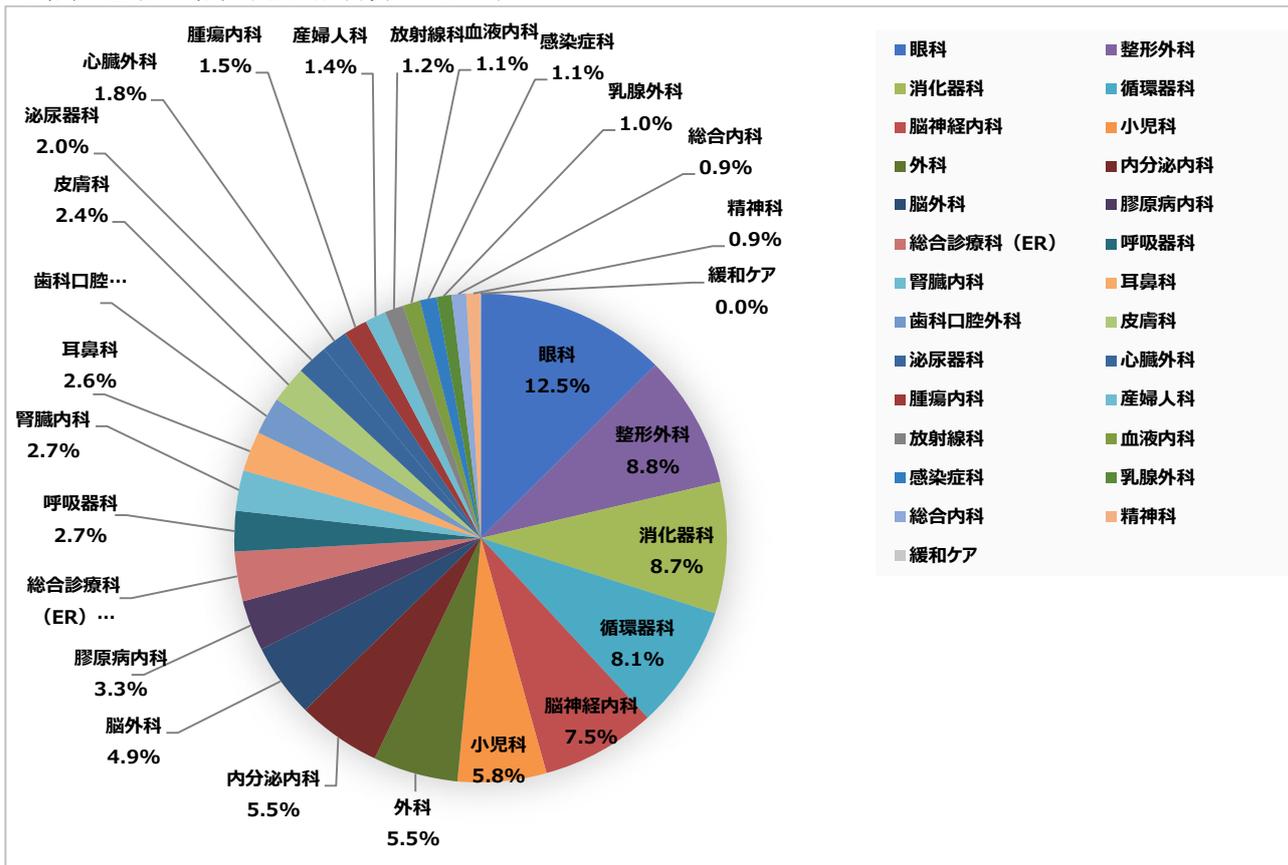
4) 紹介患者の紹介先診療科分布を示す



5) 逆紹介患者の地域分布を示す



6) 逆紹介患者の紹介元診療科分布を示す



7) 共同診療

当院では、名古屋市医師会病診連携システムの登録医と当院医師による共同診療及び指導を目的とした専用病床（開放型病床）を5床設置している。

○2024年度の開放病床利用による共同診療件数

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入院患者実数 (人)	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
入院患者延数 (人)	0	0	0	0	0	1	9	0	0	0	0	0	10

8) 共同機器の利用

○2024年度の大型機器共同利用件数

検査項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
MRI	9	20	8	7	20	21	17	26	18	35	13	31	225
CT	21	13	10	14	21	17	21	12	19	18	17	13	196
SPECT	1	2	6	6	4	5	2	4	3	4	1	7	45
PET-CT	1	0	0	1	3	0	1	0	1	1	0	0	8
合計	32	35	24	28	48	43	41	42	41	58	31	51	474

2. 地域連携クリティカルパス会議

(大腿骨頸部骨折) ※計画策定病院合同で開催
開催なし

3. 名古屋市医師会病診連携システム運営協議会

2024年9月11日(水)に定例の病診連携システム運営会議をweb会議形式にて開催した。

議題

1. 2023年度病診連携システム実績報告
2. ITと地域連携
3. その他

4. 医療連携交流会

院内外での医療連携促進を目的に講演や意見交換会を行う交流会。2024年度は下記のとおり開催した。

日 時：令和7年2月1日（土）

場 所：メルパルクNAGOYA（名古屋市東区）

時 間：17:00～19:30

参加者：1部 114名（地域医療連携関係者 64名 院内職員 50名）

2部 97名（地域医療連携関係者 55名 院内職員 42名）

概 要：（第1部）17:00～18:10

◆講演1 『標準治療としての機能外科手術
—パーキンソン病、振戦、ジストニアに対して』
名古屋医療センター 手術部長 前澤 聡

◆講演2 『今どきの心不全診療』
名古屋医療センター 渉外部長 山田 高彰

（第2部）18:20～19:30

◆意見交換会

5. 地域医療支援病院運営委員会

今年度は4回の定例の地域医療支援病院運営委員会を主にweb会議形式にて開催した。

○第一回 Web会議にて開催

日時 2024年5月8日（水） 14:00～15:00

場所 名古屋医療センター 管理棟5階 第1会議室

○第二回 第1会議室にて開催

日時 2024年9月11日（水） 14:00～15:00

場所 名古屋医療センター 管理棟5階 第1会議室

○第三回 Web会議にて開催

日時 2024年11月13日（水） 14:00～15:00

場所 名古屋医療センター 管理棟5階 第1会議室

○第四回 Web会議にて開催

日時 2025年2月12日（水） 14:00～15:00

場所 名古屋医療センター 管理棟5階 第1会議室

6. 研修

2024年度研修・協議会・検討会等開催状況

研修・協議会・検討会が感染対策を行った上で開催した。

会議名	開催回数 (年間)	登録医等参加者			院内参加者			その他 (市民等)
		小計	医師	医師以外	小計	医師	医師以外	
市民公開講座（シンポジウム）	2	0	0	0	14	7	7	450
地域医療連携web意見交換会	6	70	59	11	52	44	8	
HIVカンファランス	1	167	31	136	0	0	0	
胃腸疾患検討会	20	0	0	0	360	340	20	
救命救急合同カンファランス	2	0	0	0	37	10	27	66
在宅医療看護研究会	1	72	2	70	41	1	40	
緩和医療研究会	1	66	11	55	11	1	10	
緩和ケア研修会	1	0	0	0	26	19	7	
放射線療法・化学療法に関する研修会	1	3	1	2	8	3	5	
肝・胆・膵疾患検討会	20	0	0	0	360	340	20	
名古屋オレンジバロンカンファランス	1	95	0	95	29	4	25	
心不全における地域連携検討会	2	135	78	57	48	18	30	
合計	58	608	182	426	986	787	199	516

7. 金鯨メディネット

インターネットを利用した地域医療連携の運用を行っている。

このシステムでは参加登録された医療機関において当院の電子カルテや画像を閲覧できるシステムであり、地域の診療所等との連携を図っている。

○金鯨メディネット登録施設数（2025年3月末現在）

・119施設（診療所73、病院19、訪問看護3、薬局19、臨床5）

○金鯨メディネット意見交換会

・新型コロナウイルス感染症拡大のため開催中止

8. 金鯨友の会

「金鯨友の会」と名付けて、職員との交流や親睦を図るとともに医療、保健などの新たな情報発信の会を設け、主に会員の方を対象にした講演会・勉強会を開催している。

9. 市民公開講座

○2024年7月13日（土）開催（9:50～11:50）

会場：メルパルクNAGOYA

※名古屋市内3機構病院合同市民公開講座（名古屋医療センター・東名古屋病院・東尾張病院）

「あなたは大丈夫？ 潜む健康リスクとその予防」

・あなたと家族にも忍び寄り認知症

東名古屋病院 脳神経内科医師

村尾 厚徳

・がんのリスクと予防について知ろう ～年齢・生活・遺伝の影響～

名古屋医療センター 遺伝診療科医長

服部 浩佳

・バランスよく食べてデトックス

東尾張病院 栄養管理室長

北條 恵美

[参加者 326名]

10. 広報誌の発行

2024年度は6回発行し、患者さん及び連携医療機関へ情報発信をした。

発刊号	発行月	巻頭言	ドクターよもやま話	職場紹介		トピックス	医療最前線	連携医紹介
第124号	2024.5	『新任のご挨拶』 院長 小寺 泰弘	『積極的に感染者を受け入れ、地域の中心となって診療』 名管院長 長谷川 好規	新任挨拶		新任挨拶	新任医師紹介	新任医師紹介
第125号	2024.7	『新任のご挨拶』 副院長 平野 隆司	『犬のいる生活』 脳神経内科医長 小林 麗	新任医師紹介		『MRI更新 アミロイドpet』	『緩和ケアとは』 緩和ケア内科医師 西堀 理香	訪問看護ステーション 旭 管理者 塚本 房子
第126号	2024.9	『新任のご挨拶』 事務部長 橋村 良成	『進化する血友病の治療』 血液内科医長 安達 達哉	管理課	東9階病棟	『遠隔支援アプリ「コンシェルジュ」を導入しました。』	『膠原病の最前線』 膠原病内科医長 鈴木 道太	横山記念病院 院長 近藤 建
第127号	2024.11	『新任のご挨拶』 臨床研究センター長 近藤 隆久	『南海トラフ地震へ向けた医療対策を』 地域医療連携室長 心臓血管外科医長 村上 文彦	医療相談室・ がん相談支援センター 緩和ケアセンター	西5階病棟	『2024年5月8日 看護部「特定行為研修」を開始しました。』	『顎変形症の治療』 歯科口腔外科医師 後藤 藍	庶務MRI乳がん検診のご案内
第128号	2025.1	『新年のご挨拶』 院長 小寺 泰弘	『ゲノム医療や遺伝子検査のあれこれ』 遺伝診療科医長 服部 浩佳	放射線科	西7階病棟	『第7回 金シャチフェスタ』	『抗体薬物複合体がん治療』 がん総合診療部長 北川 智余恵	セコム名古屋北 訪問看護ステーション
第129号	2025.3	『春は？～春への想い～』 看護部長 太田 郁子	『自動運転』 外科医長 服部 正嗣	CRC室	中3階病棟	『名古屋医療センター医療連携交流会の開催について』	『95-95-95ってなんだ？ ～日本のHIVケアカスケードについて～』 感染症内科医師 今橋 真弓	北医療生活協同組合 北病院

医療相談室・がん相談支援センター

1. はじめに

2024年度の医療相談室は瀬口、橘、野原（非常勤）のソーシャルワーカー3名に加え、明神が採用となりソーシャルワーカー4名体制、中江（非常勤）伊藤（非常勤）早川（非常勤）事務員3名の総勢7名の体制で業務を行った。

2021年度に入退院・病床管理室（入退院支援センター）の発足に伴い、地域医療連携・患者支援センター部が地域医療連携室・入退院・病床管理室（入退院支援センター）・医療相談室・がん相談支援センターと4つの部門となり、ソーシャルワーカーも医療相談室・がん相談支援センターと入退院・病床管理室（入退院支援センター）にそれぞれの配置となった。医療相談室・がん相談支援センターのソーシャルワーカーに対しては、医療相談室長（ソーシャルワーカー瀬口）・医療相談室係長（ソーシャルワーカー橘）がソーシャルワーカーの専門職としてスーパービジョンを行い、入退院・病床管理室（入退院支援センター）のソーシャルワーカーは、入退院調整係長（看護師長）が上長という体制となった。

地域がん診療連携拠点病院に係るがん相談支援センター業務は医療相談室のソーシャルワーカーが担っている。がん相談支援センター専任がん相談員は4月から吉田副看護師長が配置となった。がん相談支援センター専従相談員は、昨年同様瀬口が担っている。がん相談支援センター吉田看護師は専任ということもあり、がん地域連携パス業務のみを担当した。橘は兼任、野原と明神は専任がん相談員を担った。

医療相談室では、がん患者や緩和チーム介入患者、虐待やDV（疑い含む）、精神疾患、周産期等ソーシャルワーカーの専門的な技術をより必要とする患者の担当を行っていることと、地域がん診療連携拠点病院に関わる院内外の連携業務・院内外の患者等からのがん相談・患者向けのがんにまつわるイベント運営等を担った。

個別援助業務においては、退院援助・支援が大半を占めており、患者、家族の社会的背景、問題も複雑化かつ多様化し、退院援助にかかる時間や労力も増大傾向となっている。特に、身寄りの無い方への支援は時間や労力が増大した。平均在院日数の短縮化も求められる中、ソーシャルワーカーのみでなく多職種と連携しながら退院支援していくことがさらに重要と考えている。外来での療養支援も増えた傾向があった。

医療相談室内では、スーパービジョン体制を強化し、個別スーパービジョンやグループスーパービジョンを習慣的におこなった。また、月に1回医療相談室カンファレンスを行い、テーマを決めた勉強会や事例検討など、ブラッシュアップも行った。

自己研鑽のため、各種研修にも積極的に参加し2名が認定医療ソーシャルワーカーと認定がん専門相談員、4名が両立支援コーディネーター、2名が臨床倫理認定士、1名が救急認定ソーシャルワーカー、2名が実習指導者認定、1名が認定社会福祉士認証・認定機構スーパーバイザー登録を取得している。

医療相談室では、地域がん診療連携拠点病院としてのがんサポート活動の業務も行っており、平成27年度より地域活動として名古屋市療養サービス事業団が公益事業として運営する「まちかど保健室」にて出張がん講座の企画、がん治療体験者による療養相談会の開催、がん患者・家族を対象にした学習会の企画・開催（がん患者サロンやすらぎの会）、緩和ケア週間のイベントの企画運営、療養と就労の両立支援を図るための社会保険労務士と共同した就労支援相談会の企画・開催、当院のがん患者向けのフィットネスイベントであるキャンサーフィットネスの企画・運営、がん相談公式SNSによる広報活動を行っている。本年度は「まちかど保健室」の10回、就労支援相談会4回、ピアサポーターによる療養相談会12回、緩和ケアイベント、キャンサーフィットネスを開催した。がんサポート活動状況やがん関連の情報などについて、年3回「やすらぎ通信」という形で広報誌も発行した。また、地域の保健医療福祉関係機関向けの研修である「在宅医療看護研究会」の企画・運営も行き、2024年度は113名の参加者となった。

がん地域連携パス業務については、医療相談室で会議報告資料やデータ集計をおこなった。

2024年度の具体的な業務の取り組みについては、以下報告する。

2. 業務報告

1) 報告にあたって

2024年度における医療社会事業業務は当院の「医療社会事業運営要領」に基づき、医療社会事業委員会において審議・決定された「医療社会事業業務指針」および「ソーシャルワーカーの業務基準」、さらに平成14年11月29日に健康発第1129001号をもって発せられた厚生労働省健康局長通知「医療ソーシャルワーカー業務基準」を根拠に行ったものである。

報告のかたちについては、「業務基準」に照らし合わせ整理して列挙した。

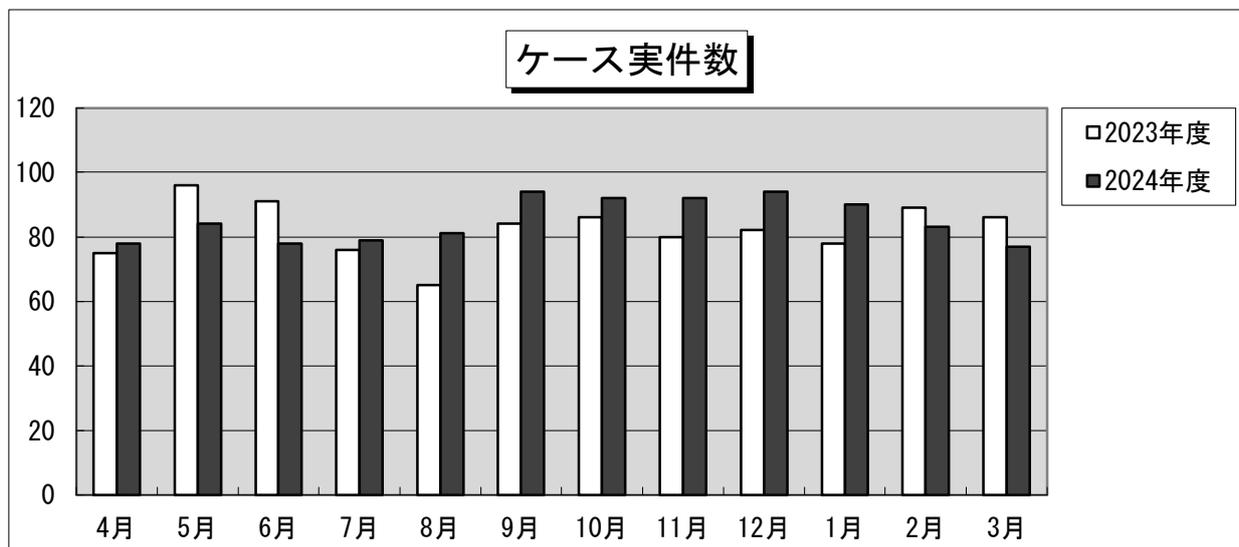
2) 個別援助

ソーシャルワーカーの主要業務である患者や家族に対する個別援助業務について、本年度の状況を概観してみた。

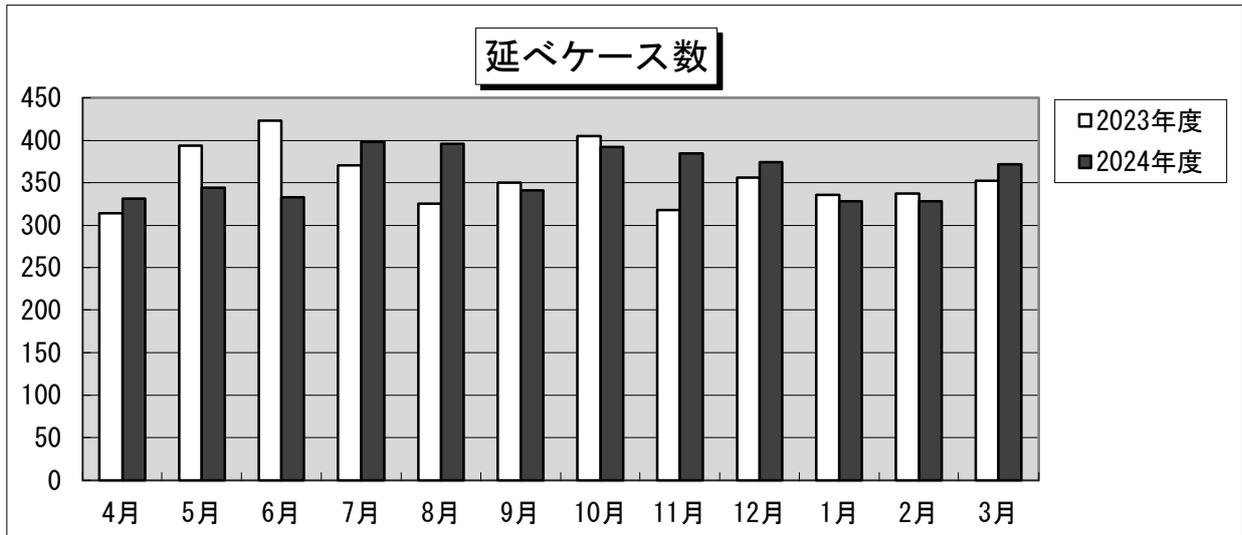
① 実ケース及び延べケースの月別件数

実ケースとは、その月に実際に取り扱ったケース数であり、延べケースとは、そのケースについて何らかの措置を行った日数の積算である。

2024年度は全体で、実ケース数が1022件、延べケース数が4322件であった。



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2023年度	75	96	91	76	65	84	86	80	82	78	89	86	988
2024年度	78	84	78	79	81	94	92	92	94	90	83	77	1022



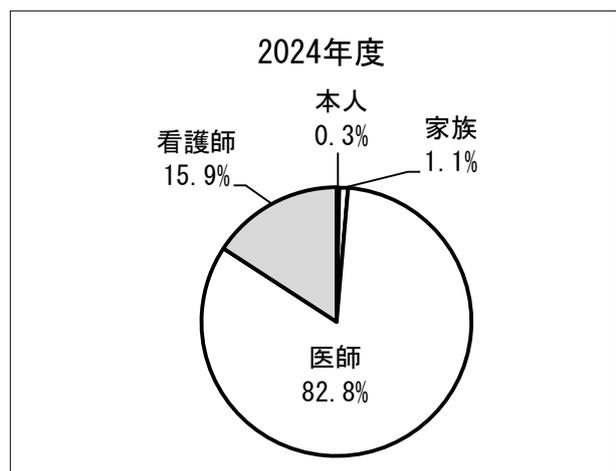
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2023年度	314	394	423	370	325	350	405	318	356	336	337	352	4280
2024年度	331	344	333	398	396	341	392	385	374	328	328	372	4322

② 実ケースの紹介者別件数

実ケースの「紹介者」とは、ソーシャルワーカーがケースを受け付けた直接の相手方と定めている。今年度も医師・看護師からの紹介は約98.7%と高値を示している。

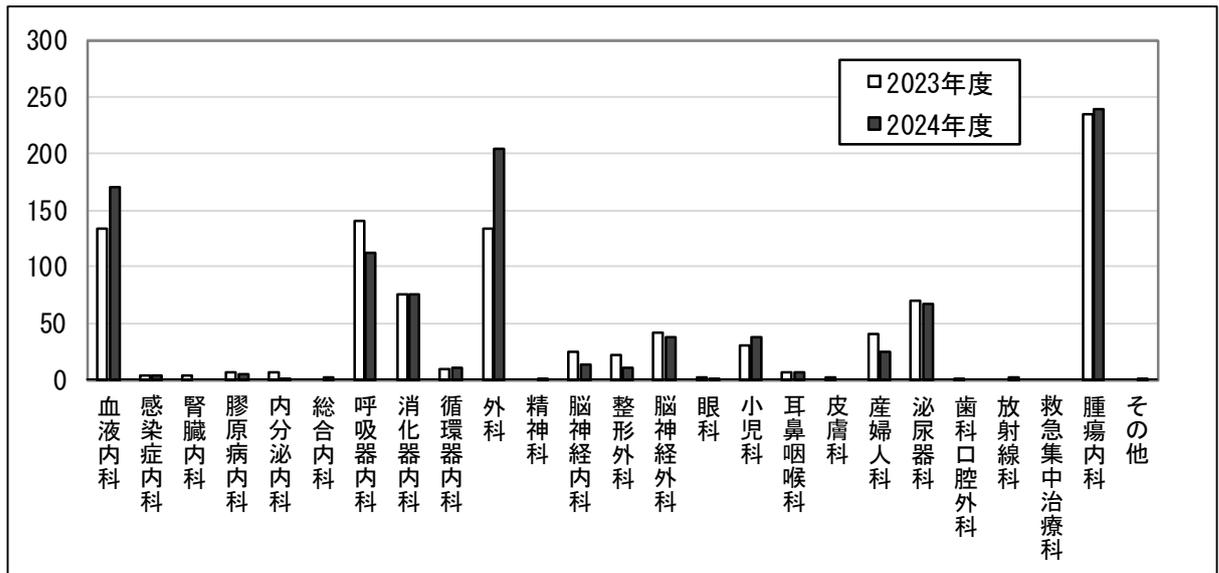
※「関係機関」とあるのは、福祉事務所、保健所、訪問診療、訪問看護ステーション、ケアマネジャーなどである。

	2023年度	2024年度
本人	0	3
家族	8	11
医師	762	846
看護師	218	162
その他の職員	0	0
関係機関	0	0
他の医療機関	0	0
その他	0	0
合計	988	1022



③ 実ケースの診療科別件数

腫瘍内科、外科、血液内科の順に多く、この3診療科で全体の約60%を占める。

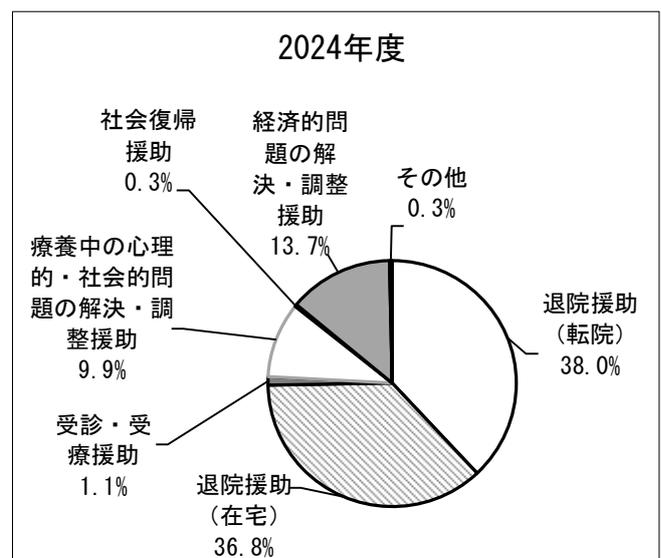


	血液内科	感染症内科	腎臓内科	膠原病内科	内分泌内科	総合内科	呼吸器内科	消化器内科	循環器内科	外科	精神科	脳神経内科	整形外科	脳神経外科	眼科	小児科	耳鼻咽喉科	皮膚科	産婦人科	泌尿器科	歯科口腔外科	放射線科	救急集中治療科	腫瘍内科	その他
2023年度	134	3	3	7	7	0	140	76	9	133	0	25	22	42	2	31	6	2	40	70	1	0	0	235	0
2024年度	170	3	0	5	1	2	112	75	10	204	1	13	11	37	1	37	7	0	24	67	0	2	0	239	1

④ 実ケースの内容別件数

ケースの内容を「医療ソーシャルワーカーの業務基準」の分類によってまとめると下表のようになる。相談内容は、ここ数年来の傾向通り、退院援助（転院・在宅）が全体の約7割以上を占めた。

	2023年度	2024年度
退院援助（転院）	393	388
退院援助（在宅）	440	376
受診・受療援助	1	11
療養中の心理的・社会的問題の解決・調整援助	34	101
社会復帰援助	4	3
経済的問題の解決・調整援助	111	140
その他	5	3
合計	988	1022



⑤ 措置の手段

問題解決のためにソーシャルワーカーがどんな手段を用いたかを示すと次のようになる。

「面接」は持ち込まれた患者や家族の「問題を解決するために明確な意図を持って意識的に行われる話し合いである。」と定義されている。したがって、言語を媒介にしてソーシャルワーカーと患者、家族、関係者との間で、信頼関係を基礎に状況判断、援助方針の設定、措置などが行われる個別援助業務の中心的手段である。

「合同面接」とは、ケースの直接的な調整を図る目的で、ケース側（患者や家族）とワーカーに加え、院内職員や関係機関など三者以上で行われる面接をいう。

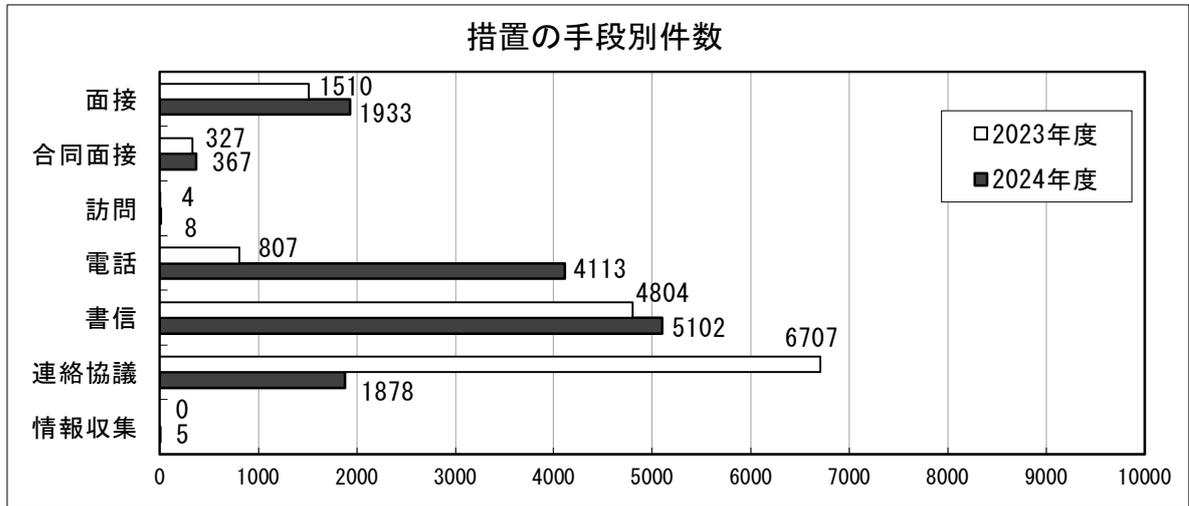
「訪問」とは、ケースの解決のためにワーカーが必要な手続きを経て、患者の家庭、勤務先、その他関係者などを訪れ、状況把握や調整行為を行うことをいい、病棟訪問など院内を歩き先とするものは含まれない。

「電話」とは、患者や家族に対して面接には至らない程度の簡単な内容伝達を電話で行うことをいう。

「書信」とは、通常概念による意志伝達手段に加えて、カルテへの記載、報告書等も含めている。

「連絡協議」とは、ソーシャルワーカーから院内職員等への情報収集、問題解決に向けての協議などを指す。

2024年度の総措置件数は13406件であった。



	面接	合同面接	訪問	電話	書信	連絡協議	情報収集	合計
2023年度	1510	327	4	807	4804	6707	0	14159
2024年度	1933	367	8	4113	5102	1878	5	13406

3) 個別援助業務以外の業務

2024年度も個別援助業務が中心ではあったが、それ以外の業務も、以下の通り行ったので報告する。

院内外の会議やカンファレンスでは地域連携、疾患毎（がん、精神など）や、虐待などMSWの専門性を求められる領域が広がっている。

	内容分類	具体的内容	2024年度
院内業務 常例的業務		患者サポート体制に係る相談	1133
		上記以外の相談（情報提供・問い合わせ・調整等）	608
		来客対応（他病院関係者等）	87
		がん相談	1576

	院内会議への参加	診療・病床管理・医療社会事業・がんセンター・地域連携推進・退院調整・リハビリ 等	125
		緩和ケアチームカンファ・患者サポカンファ 等	238
地域活動	関係機関等との会議	がん地域連携パス・児童虐待・小児がん 等	49
	その他の地域活動	市民公開講座・医療連携交流会 等	7
		病院訪問	0
研究教育	学会・研修会等への参加	国立病院機構ソーシャルワーカー協議会・がん相談支援センターにまつわる研修等	133
	講義・実習指導など	研修医見学 等	24
合計			3980

※常

例的業務の中の患者サポート体制による相談やがん相談は、個別援助業務を除く複数回の相談を必要としない患者・家族からの直接相談ケースである。

4) がんサポート活動

がん診療連携拠点病院として、がんに関する患者活動支援、地域活動などがんサポート活動を行ったので、以下の通り報告する。

がんサポート活動内容		2024 年度
がん治療体験者による相談会（ピアサポーター）		12 回
社会保険労務士による就労相談会		4 回
やすらぎサロン	患者、家族向け学習会	9 回
	やすらぎ通信	3 回
まちかど保健室	がん出張講座	10 回
緩和ケア週間イベント		1 回
キャンサーフィットネス		1 回
合計		40 回

※「がん治療体験者による相談会」

毎月第3水曜日に外来棟1階ホールで、がん治療体験者やそのご家族が、体験からの学びを生かし、新たにがんになった患者さんやご家族をサポートするための相談会を開催している。

※「社会保険労務士による就労相談会」

がん患者さんの中には治療と就労の両立に悩みや不安を抱えている方も少なくないため、3か月に1回第3水曜日に社会保険労務士による就労相談会を開催している。

※がん患者サロン「やすらぎサロン」

患者さんやご家族、同じ悩みを抱えている方々が語らえるやすらぎの場として平成22年2月、サービス棟1F食堂横に開設。がん関連の書籍や冊子、インターネット閲覧なども出来、情報収集の場にもなっている。事務員を配置し、平日10時～15時まで常時開室している。またがんに関するテーマで当院職員が講師となり様々な勉強会や、患者さんやご家族同士の語らいの会を開催している。

※「まちかど保健室」

名古屋市療養サービス事業団が運営している公益事業で、地域住民に対し、保健・介護相談事業、健康づくり講座、認知症カフェを実施している。

6) 業績リストは別紙参照

7) 講師等

岐阜大学 AYA チーム研修会講師	瀬口
愛知県がん相談支援センター相談員研修講師	瀬口
がん患者サロンやすらぎの会講師	瀬口・橘・明神
まちかど保健室講師	瀬口
ミーネット市民公開講座講師	瀬口
研修医見学対応	瀬口・橘
緩和ケア研修会講師	瀬口
愛知県医療ソーシャルワーカー協会研修講師	明神
同朋大学ゲスト講師	明神
日本医療ソーシャルワーカー協会研修講師 (オンラインセミナー)	瀬口
養育支援サポート研修講師	瀬口・橘
入退院支援に関する実践力向上研修	瀬口